

ときめき人

Tokimeki bito

地域の歴史を後世へ



松葉老人クラブで編集委員を務めた皆さん。前列左が高橋善一さん、左から2番目が浅野稔会長。

36世帯のみの小さな集落で構成される南方町松葉行政区。そこで活動する南方町松葉老人クラブが、地域の歴史を後世に伝えたいと地名の由来や文化などを記した「探せ！おらほの宝物！」を作成した。

同冊子は、登米市社会福祉協議会の補助事業を活用し、2018年9月から作成を開始。松葉行政区に住み、南方町役場では文化財の事業を担当していたこともある高橋善一さんを中心に、地元住民が集まって編集に取り掛かった。

「ずっと昔の歴史は資料が少なく、詳しく調べることがとても大変だった」と編集の苦労を振り返る浅野稔会長だが、「苦労は多かったけれど、長く住みながらも知らなかった歴史、文化がたくさん

あることに気付かされた。自分たちにとっても地元のさまざまなことを知る良い機会になった」と目尻にしわを寄せた。

新型コロナにより活動できない期間がありながらも、約2年半の編集期間を経て今年2月に完成し、行政区内の毎戸へ配布。「方言のページを見ながら、孫との会話が盛り上がったよ」とクラブ会員の一人が声を弾ませた。

昔、河川の多かった松葉地区で、見張り番がそこにあつた大きな松の木の葉を敷物にし、魚の群れが来るのを見張っていた。「待つ場」と「松葉」の二つの意味が込められた地名。現在も地域のシンボルとしてそびえる大きな松の木のふもとは、松よりも大きな地元愛があふれている。

編集後記

▼4月から広報担当となり、若い衆の取材をしました。慣れない業務で緊張もありましたが、とても気さくな人で楽しく取材することができました。これから、よろしく願います。(大立目)

▼スポーツや芸術の分野で、全国に挑戦した皆さんを取材。コロナ禍でのさまざまな制限の中、懸命に気を吐く気概に頭が下がります。今できることにしっかりと取り組む姿勢で、新年度に臨みます。(佐々木)

▼佐沼高の全国での活躍を取材。全国の舞台に立つほど一生懸命に頑張る選手たちは、競技以外でも礼儀正しく、人としてしっかりしている印象を受けました。夏の舞台でも、彼らの躍動を期待しています。(三浦)

▼4月から別部署へ異動となりました。思い返すと、あつという間の3年間。多くの人からお話を聞かせていただきました。取材などでお世話になった皆さん、本当にありがとうございました。(小野寺)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tomiyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>

